



●ご挨拶

財団法人 名古屋産業振興公社

理事長 西部 啓一

(財)名古屋産業振興公社の理事長 西部啓一です。当公社は、本年9月1日に、(財)名古屋都市産業振興公社と(財)名古屋市工業技術振興協会が合併し、新たな船出を果たしました。この日を無事迎えることができましたのも、皆様の多大なるご理解、ご協力のおかげであり、深く感謝いたしますとともに、責任の重さを実感しております。

このたび合併いたしました2つの法人のうち、(財)名古屋市工業技術振興協会は、名古屋市工業研究所の支援を受けた中小企業を中心に400社を超える賛助員のご支援、ご協力のもと、研修事業、技術相談事業等を通じて中小企業への工業技術支援を行ってまいりました。また、(財)名古屋都市産業振興公社は、当地域の産業振興を図るため、名古屋市が設立した団体であり、経営支援をはじめ、プラズマ技術の産業応用支援、中小企業振興会館(吹上ホール)や国際展示場の運営等を通じて中小企業への各種支援を行ってまいりました。

この2つの団体が合併し、それぞれの団体が実施してまいりました支援事業を統合することにより、企業活動の研究開発段階から販路開拓段階まで一貫した、中小企業への総合的な支援を行っていくことが可能となります。

特にこの地域の産業を支える中小企業の皆様には、従来にも増し

積極的にサポートしてまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

ところで一昨年からのリーマンショックが尾を引き、名古屋圏の企業も大変厳しい経営状態を強いられています。各企業の努力ならびに、各公共機関の緊急支援等により、経済不況は脱しつつあるとの見方もありますが、景気は、二番底はあるやなしやと緊迫しております。

技術のひろば前号において、当時の松尾隆徳会長(現:(財)名古屋産業振興公社副理事長)が「変化せねばならない戦略・戦術のうち、技術分野の変化のために、これからは(財)名古屋産業振興公社を多いに活用し、技術力、製品力の強化に、新事業分野の拡充に励んで下さい。」と(財)名古屋市工業技術振興協会を支えている名古屋市内外の中小企業者・賛助員へ呼びかけております。この言葉に応えるべく(財)名古屋産業振興公社は、名古屋市の産業振興のため、なお一層努力を重ねていく所存でございますので、今後ともご指導ご協力の程よろしくお願い申し上げます。